

会議記録

名称	廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和4年10月18日(火) 10時00分から11時30分まで
開催場所	あきる野市役所 3階301会議室
出席者	委員 10名、事務局 3名
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 会長及び副会長の選出3. 市長挨拶4. 諮問5. 委員紹介6. 議事 一般廃棄物処理基本計画(案)について (会長) プラスチックの話は、刺激的な内容で、一般的には地球温暖化対策にはプラスチック削減が必要だと言われているのですが、地域特性があり、あきる野市では温暖化対策にはあまり良くないかもしれないということでした。

(委員)

資料 1-1 の 2 頁のごみ処理の現状と課題で、不燃ごみや粗大ごみが増えているとのことでした。不燃ごみや粗大ごみが増えている原因が分かれば教えてほしい。

生活排水処理基本計画ですが、観光誘致に行政として力を入れています。そういう部分では公衆トイレ、観光トイレを水洗化したことにより、川や山に遊びに来た方の利用率が高くなっている。観光の増加により、し尿処理に影響しているか分かれば教えてほしい。

6 頁の最終処分計画の中で、以前に埋め立てたものを掘り起こして燃焼化していると記載されており、それによって埋め立てる処分量が少し減ってきているとありました。当初の計画と、それをしたことにより、どのくらいの延命措置を行政として考えているのか。多摩の処分場組合もそれをやっていて、ここ何年かはごみを埋立はしていないと聞いたことがあります。あきる野市、西秋川衛生組合は最終処分場がこちらにあるので、どのくらいの延命措置かをお伺いしたいと思います。

資料 1-3 の中で、プラスチックの分別・再資源化とあるのですが、他の行政でやっているところは、例えば福生市や羽村市等は袋を別にしてやっているが、意外と包装と製品プラ等分別が分かりづらく、分別する意味があるのか疑問視しています。

いろいろな行政の焼却炉を見せていただいたのですが、焼却稼働率が高いほうがダイオキシン等の発生率が下がると聞いています。そういう意味では、プラスチックの再資源化をやることによって問題があるのか。あきる野市は森林の面積が大きいので、これをやっても影響は少ないといったことがあれば、もっとそれをアピールしてもらった中で協議したほうがよいのではという気がしています。

(会長)

事務局からご回答をお願いします。

不燃ごみ、粗大ごみの理由くらいからどうですか、何か推測されているようなことがあれば、お願いします。

(事務局)

不燃ごみ、粗大ごみに関しては確かに統計上増えているところがありまして、明確にこういうところが理由ということは申し上げられないことにはなるのですが、一因としては在宅の時間が増え、家の片付けをされて、実際に西秋川衛生組合への持ち込みごみが増えている状況になるので、そういうことが一因として考えられるのではないかと推定しているところでございます。

(会長)

生活排水の件は質問が難しかったのですが、観光トイレの問題に絞っていただいていたので、観光トイレによって環境負荷が上がっているのかといった質問だったかと思いますが、何か情報があればということですが、如何でしょうか。

(事務局)

街にある観光トイレは下水道に接続したりしていますが、山のほうに行くと汲み取り等になっているので、影響としてはあると思います。

(委員)

排水法なり下水法なり、繋げれば処理が増えるというのはイコールですよ、そういうことに繋がりますよね。

(事務局)

下水に繋がたら、行った最後のところでの負担になります。

(会長)

個別に汲み取りをするよりは、下水がもう来ているところであれば繋いだほうが当然効率は良いとか、トータルで見えていただくと良いと思います。

あといかがですか、6頁の最終処分の話は、し尿処理施設の汚泥の焼却の件だったと思いますが、質問のほうはもう少し広いごみ処理一般の最終処分の件だったかと思いますが、そちらの方で何かご意見はございますか。大きなところは溶融等をやられている延命がどのくらいですかというようなご質問だったかと思いますが、ご回答いただけると良いかと思います。

(委員)

今の処分場の延命化のお話は、明確な数字はいまお答えできないのですが、確か令和25年度くらいまではもつという話になっていたと思いますので、20年程度延命化が図れるということになっていると思います。もし間違いがありましたら訂正させていただきたいと思います。事務局にお伝えしたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。

それから、プラスチックの件もご回答が難しいかと思いますが、資源化による影響等について、市はどのように考えるかといった質問だったかと思いますが、よろしく申し上げます。

(事務局)

先ほどお配りした資料 1-3 に、あきる野市の場合にはプラスチックを分別すると、リサイクル方法によっては CO2 の排出量が増えてしまうというところで、影響はあると思います。森林循環ということで、あきる野市は山をいっぱい抱えていて CO2 の吸収に貢献しているところからいうと、そういったところの兼ね合いもあると思います。ただ数字的には森林吸収量と今回行った試算は絡めた形での算出は行っていませんし、そこまでは求められていないので、森林の部分は切り離した形にはなります。今回調査を委託している報告の数字を基にプラの分別は進めていきたいと思います。

また、先行してやっている自治体さんでは、分かりづらいという話もありますし、今後プラをやる時にどういう形でやるかは、容器包装と製品プラといったものを全部まとめて集めてリサイクルする方法もあれば、容器包装だけを集める方法もあるので、またその辺りも含めて検討しようと思います。

(委員)

森林の CO2 吸収に関しては、まだ全国的にデータが統一されていないといった面もあって、非常に評価が低いです。あきる野市は森林が 6 割あるのですが、排出量に対して吸収量の方が断然少なく、この辺りでいうと檜原村くらいしか吸収量が上回っている自治体が存在しないような状況です。

それからプラの分別の件ですが、東京都の市では、あきる野と稲城と狛江が今のところやっていない状況です。23 区もいくつかやっていない状況がありますが、稲城、狛江、23 区も今後進めていく考えです。東京都でプッシュしていて、補助金を積極的に出すのですが、ただうちの現状が難しいというのは正直なところ。実際 23 区ではごみの全体量が多いので、若干プラが抜かれたくらいで助燃剤をプラスするというような影響は少ないということは東京都で確認しても

らっています。東京都にもお話しして、あきる野の現状の中で今後も支援をお願いするというような話をしてくれているところではございます。

(会長)

ありがとうございます。

プラスチックの話は結構難しいのですが、技術的な話では、CO2の計算の仕方というのかなり複雑で、本当にそれが正しいかどうか我々にはなかなかわからないというところがあります。ブラックボックスに近い。先ほどの吸収の話もそうですが、科学的知見に基づいてはいるのですが、本当にそうなのかというのはなかなかわかりません。

特にあきる野の場合は、ちょうどこの会議が始まる前に雑談で話をさせていただいたのですが、処理の方式がガス化溶融炉という炉を西秋川さんがお持ちで、こちらはその当時最先端で、とにかくごみ減量、埋立処分場を延命化するという意味では非常に効率的で効果的な、非常に優れた方法なのですが、ただしごみの中の熱量、要するに燃えるものが一定程度無いと自力では動かないというところに大きな課題があります。先ほど言いましたようにプラスチックを丸々抜いてしまうと、代わりに灯油等わざわざ石油を使って外から熱を加えないといけないという仕組みになっているところもあるので、一概に市民が努力してプラスチックを全部回収してリサイクルに回そうとやると、違う意味でCO2排出量が増えてしまうということで、大きな課題だと私は思っている次第です。バランスは非常に大事だと思います。東京都全域と一律で同じ事をできるかどうかというところですね。環境面からは先ほど計算で出ているように、逆にCO2が増えてしまうのであれば、やりすぎないということも大事なかもしれません。とは言え、やらないという選択肢も、今法律上全国でやりなさいという指令が4月から公示されてしまっていますので、そういうところも是非委員の皆様いろいろな立場からご意見をいただくと良いのではと思います。どれが答えというのは無い状態かと思っています。

その他いかがでしょうか。質問でもご意見でも。

(委員)

資料 1-1 の 4 頁の (3) ごみの減量のための施策というところで「水切りの徹底」というのがあるのですが、そもそもごみの三成分、水分・灰分・可燃分の水分を減らすことというのが、可燃ガス CO2 の排出削減には繋がらないのと、最終処分場に持っていく灰分の減少にも繋がらないと思うのですが、その割に計画になっている、水切りを徹底して一人当たりの水分を減らしましょうというのが最終年度で 40 グラム程度とあって、生ごみは確かに濡れていると重いのですが、例えばレタスやキャベツは元々 90% くらい水分があって、その水分まで含めて厨芥類の水分だと思うので、40 グラムを 1 人当たり減らすというのは現実的なのか。それをやることはごみを減らしましょうという市民に対しての啓蒙活動としては良いのですが、CO2 を減らすことには繋がっていないので、運搬車が軽くなって燃費が良くなるというような二次的なことはありますが、そこに重きを置いて市民にお願いしますというのも現実的なものなのか。プラスチックが難しいと言われているがどう分けるかというのを我々はまだ聞いていないので、それによっては負担が大きくて効果が無くなるかもしれないというのが思ったことです。

(会長)

ありがとうございます。

疑問点ということですが何かご回答がもし簡単でもあれば、事務局から一言でもいただければと思いますがいかがですか。

(事務局)

確かにうちもそういった形での取組はしておりまして、捨てる前にひと絞りという形で掲示していますが、確かに重さの観点での取組に

なっていて、CO2削減というのは確かにそういう部分もあるかと思えます。ただ水分が多いと炉に入れた時に若干熱量がかかってしまうと思われるので、少なからず影響があるだろうというところで、少しでも乾いたものであれば熱量が少し確保されるだろうという要素もある。メインは確かに重さを減らすことが主の目的になっているので、CO2とは離れているかと思えます。

(委員)

その時に1人当たり40グラムの削減というのが現実的に可能なのか、5年後に見直した時に果たしてその部分は要らないとにならないかが心配です。実際自分の家でも水を十分に切っていますが、ご飯の残りやくず野菜の残りというのは元々それなりに水分を持っていますから、大して重さが減っていないというのが実感で、ごみ袋を雨の日に出して全体が濡れてしまって重くなるというのはありますが、その市民の努力をお願いした割には効果が少ないのと、計画通りにいくのかという疑問があります。

(会長)

ありがとうございます。

私も読んでちょうど48頁に同じところにラインを引いていて、なかなかチャレンジングな数字だと思っています。おっしゃる通りで、私も大学の授業で同じことを学生に、水切りを無駄だという話ではなくて、元々含水している植物の問題や食べかすというのは8割くらい、ご飯粒でも7割以上含水率を持っていますから、そういう話をよくしている次第です。

ただもう一つは国の方針で、1人当たりごみ量をどこまで減らしますかという目標値が設定されているので、CO2だけではなく国全体の目標値の設定に合わせると、1グラムでも減らしたいというのがあきる野市としての考えでもあるので、指標を守るのが全てかというところではないのですが、一定程度は指標を設定しているので、そこに関

わるところで市民のやる気を出していただくというのも大事かと思
います。

おっしゃる通りで、全員が絞ってもおそらくこの数字は出てこない
かとは思いますが、ただ一つは先ほどの説明の時にもキーワードが出て
いましたが、食品ロス。例えば4頁のごみの減量のための施策のとこ
ろで食品ロス、水切りと言っていたのですが、食品ロス関係は
いきなり効いてくるので、ここはとにかく市民で頑張るとするのは大
事な点だと思います。先ほどの説明が良かったと個人的には思ったと
ころです。重量ベースでいうと水切りよりも食品ロス、食べ残しの削
減は大きく効くところかと思えます。CO2 排出にも効き、ごみ減量に
も効き、食べ物を大事にするというところでも、トリプルで効いてく
ると思えます。

その他、ご意見でも質問でも結構ですので是非よろしくお願いま
す。

(委員)

資料 1-3 のプラごみの件が気になるのですが、私は素人ですが一市
民としては、プラごみが可燃物になったのは10年くらい前ですか。
あれは皆大変喜んでいまして、家庭ごみもそうなのですが、特にお祭
り等のイベントの翌日に片付ける時に、ぐしゃぐしゃに入っているの
をいちいち探し出してプラごみを外していたのが今は瓶と缶を外せ
ばよいだけになってきたので大変喜んでいました。やはりこのような
ご時世なのでそれをやっつけていかなければいけないのはわかるので
すが、このアンケートの半分以上の方が分別を実施すべきと書いてい
るのですが、回答率47.8%の残りの5割は、そのような面倒なことは嫌
という人が回答していないのではという気がしてならないです。その
辺りの意識改革というのかなり進めていかないと、結局やってもま
たぐしゃぐしゃの状態で出されて、難しいですよ。以前やってきた
ものを一回OKにしたので、またそれを復活させるという感覚になる
わけで、そうすると、また面倒なことをしなければいけないのかとい
う意識が一般市民にはかなりあるのではないかと正直なところ思っ

ています。それを変えていくのはなかなか大変ですが、早いうちから、もうやらないといけないのしょうから、PRをどんどんしていただきたいと思っております。

(会長)

ありがとうございます。

(事務局)

そういう要素も多々あるかと思っています。確かに面倒だということもあると思うのですが、いつできるかという話をまだできないので、決まった段階では当然周知等を十分な期間を設けていきたいと考えています。現状今回の結果のもとにも、いつにやるということも具体的に言えないような状況なので、その辺りがもっとはっきりした段階での周知等は徹底していきたいと思えます。

(会長)

ありがとうございます。

(委員)

今言われた話の関係なのですが、例えばもし分けるとすると、可燃ごみは焼却しますが、プラスチックはそのままりサイクル、青梅のリサイクルセンターでは四角に圧縮して置いてありますが、あのような形で分けるといことですか。結局分けても燃やしてしまったら同じことだと思ったので、方向性がもしわかればお伺いしたいです。

(事務局)

容器包装と全プラを一緒に集める方法と、分ける方法がありますが、市民が混乱しないのは一緒に集める方法です。一緒に集めたものは、おっしゃったように四角に圧縮して次の中間処理業者に渡して、その業者がその先のリサイクルに回すという形になります。

その中で汚いプラスチックが入っていたりするとそれが引き上げられて戻ってきたりするので、その場合には焼却という形になります。

(委員)

八王子市等で今やられているのですが、清掃工場で大きなベルトコンベヤーに入れて一回集めたプラをばらして、使えるもの・使えないものを手作業で分けて、使えるものを集めて四角に形にしているような状況です。その手間もかかるので、これからやろうとするのは、きれいなプラ・汚いプラという形で、先ほど言われていたように、お祭り等で出た汚れたプラは燃やすごみで処分していこうという考えで基本的にはいるところですが、プラの状況も日々変わっているところではございますので、その辺りはじっくり検討していきたいと思えます。

(会長)

ありがとうございます。

(委員)

廃プラの問題で、マイクロプラスチック問題で海洋が汚染されている状況ということで、環境省でも力を入れたということで方針が再利用するという話になってきていると思うのですが、実際ここの西秋川衛生組合さんを作る時には、今おっしゃったように、燃やせるごみ・燃やせないごみと言っていたのが、今は可燃・不燃というだけで、燃えるか燃えないかの分別に変わったということで、プラスチック関係

は燃えるものだということで分別は確かに楽になったと思います。燃やすということだけでなく、今あそこの施設は熱回収施設ということで発電所という概念のところですか。昔はごみ焼却場という言い方をしていたと思いますが、焼却はしていますがごみの焼却ではなく熱回収施設ということで発電をして自分のところの電気と余剰電力は売電するという形でやっていると思います。そこで今は逆に経産省で電力需要の問題でこの冬もひっ迫するということです。私の考えは、既存の清掃工場は発電所だという考え方で、せっかくごみを燃やすなら発電しようという炉の第一線を行っているのが西秋川衛生組合であると思います。環境省と経産省の考え方をやってくると、ひょっとするとやはり燃やして発電したほうが地域社会には良いという話になってくるかと思います。西秋川衛生組合さんでも焦らずにすぐに収集方法を切り替えるということを持った方が得策かと私はずっと思っています。世の中の流れが変わるような、太陽光発電に頼るということもあります。減少分も今当然ああいう状況なので、別の発電と考えると、あえて火力発電でやっている石炭等の材料をわざわざ仕入れて買って燃やすというのと自然発生してくるごみを燃やして発電するというのとどちらが良いか考えていただく方向に持っていってもらうのが良いのではと私は最近思っています。

(会長)

ありがとうございます。

大変良い意見で、環境問題はトータルで見ないといけないというのは非常に大事なところかと思えます。最近の清掃工場だといわゆるメガソーラーと同じくらいの発電量が出ます。メガソーラーだと日中5時間くらいしかフルには頑張れないですが、清掃工場だと24時間発電し続けるので、そう考えると頑張って空き地にメガソーラーを建てるよりも焼却炉を建てるほうが良いのではというのは正に副会長がおっしゃっていた通りで、いろいろな視点で、どれが答えというのは無いので、住んでいる方がどれを選ぶかということを丁寧に進めていただくのが良いのではと思います。

いろいろなご意見が出ておりますが、本当に是非いろいろな立場で
ご意見をいただくと良いのではないかとと思いますが、如何ですか。

(委員)

プラスチックのごみのことですが、分別する容器というのはどのよ
うなものですか。容器包装というのはお煎餅の袋等ですか。

(事務局)

そうです。お煎餅の袋やシャンプーのプラスチックの容器等、そう
いったものが容器包装リサイクル法に引かかるもので、そういうも
のとまた別に全プラとよく言われますが、プラスチックのハンガーや
お風呂場の椅子といったものがまた違うプラスチックとしてあって、
国はその両方とも集めて分別するという話をしていて、先進的な自治
体だと容器包装だけを今やっているというところもいくつかありま
す。ペットボトルはまた別ですが、うちの場合ペットボトルは既に分
別しています。

(委員)

いろいろな分別が大変で、可燃は多くなったのですが、例えば今ま
で傘はごみではなかったのが変わったりすることに高齢者が対応で
きないです。調べればわかりますが、調べるのもスマートフォンか何
かで調べたり電話したりしないといけない。変更していることも知ら
なければ調べようとも思わない。そういうことを考えるとプラスチッ
クを分別すること自体が大変な人もいます。燃やす・燃やさ
ないという話ですが、そもそもこの市であまりプラスチックを出さな
いようにする、お店でプラスチックの容器に入れて売るのではなく、
自分で容器を持ってきてくださいという推進をして、もの自体を出さ
ないようにするという形に、量り売り等をやっているお店もあるので
そういうところを周知するような話も前にあったような気がします。

(委員)

ごみ会議のほうでありました。それはまだ今後、ごみ情報誌「へらすぞう」で、毎年一回発行しているので、出していこうかという話で、次回以降くらいにもしかしたらそういうものが掲載されるかもしれませんが、まだそれは決まったわけではなく揉んでいる最中です。

(委員)

揉んでいるのであればどんどん揉んでいただいて、ごみは増える一方で、コロッケ一個買うにしても前はビニールの袋だったのが今はコロナになって一個一個包装しているものを買わなければいけなくなったので、そういうことも考えていただいて、あきる野市のスーパーに啓発してプラスチックを減らす、容器を持ってきた人に、コロッケ100円のところを80円で売る等、そういうことを推進してごみを減らすべきです。燃やす・燃やさないではなく減らすべきだと私は思います。

(委員)

食品トレーも白いものと白くないものを分けていますが、もともとトレーでなくても良い食品もあると思うので、我々一般市民だけでなく事業者にも働きかけていく取組も減らす上では必要かと思います。

(事務局)

脱プラ自体は国も推奨していて企業にプラスチックを減らすと言っていて、先進的なところはコンビニさんでプラスチックのスプーン・フォークを辞める等、特に大手ではやられていますので、小さな事業所さんでもできることはあると思います。既にやっているところもあると思うので、そういうところの取組を支援するのも施策の一つ

かと思えます。

(委員)

市か商工会で1万円が1万3000円になるプレミアム商品券をやっ
てくださいますが、そういうものを使えるところをそのような取組を
しているお店を宣伝してプレミアをつけてあげる等、お得感が無いと
主婦はいかないので、そういう取組もしていただけると良いかと思
います。

(会長)

ありがとうございます。良いアイデアです。最後のものは良いです
ね。おっしゃる通りで、減量は使ってリサイクルを頑張らなくてはと
いうよりは、減らせるものは減らしていくというのは非常に大事なと
ころだと思えます。非常に良いご意見をいただきました。ありがとう
ございます。

その他いかがでしょうか。

最後にまた戻って全体の意見を伺うということでもよろしいでし
ょうか。もう一つ議題がありますので、一旦先へ進んでみてまた時間
が残っていましたら、皆様のご意見を伺うということでもよろしいで
しょうか。

(委員全員)

意見・質問等なし。

(会長)

ありがとうございます。それでは先へ進みたいと思えます。

動物死体処理手数料の改定について

(会長)

以上、議題は二つなのですが、戻りますが基本計画の関係でまだ言い残したこと等はございましたでしょうか。

(委員)

環境委員会でも、市の総合計画ではSDGsの項目がいろいろとページの上に入っています。基本計画を改定するときに入れたほうが良いのではという意見が出て、何でもSDGsとの関連が増えてきています。廃棄物なのでどこまで入れるかというのはありますが、それはこれから行政の総合計画やいろいろな基本計画にSDGsが入ってくるので、参考としてこのようなSDGsの項目が入るというのを基本計画に入れていただければ良いのではと思います。あくまであれは目標ですが、目標設定なので、2頁にもSDGsについて出ているので、各項目にこれが当てはまるというのを掲載していただければ有り難いと思います。

(会長)

ありがとうございます。各項目について関連性がありそうなところがあればというご提案だと思いますので、ご検討よろしく願いいたします。

その他、如何でしょうか。

(事務局)

SDGsに関して、プラごみの関係はまさにつくる責任、つかう責任という、つくるところから抑えていく必要があるといった考え方で、

プラごみの方針として直接結びつかなかつたり入れにくかつたりする面があるので、その辺りをどう落とし込めるかを内部で協議させていただければと思います。ダイレクトに落とし込めるところもあると思いますが、いろいろ考えていくと、衝突を生む落とし方になつてもいけないので、その辺りは検討させていただければと思います。

(会長)

ありがとうございます。全体でご意見があれば承ります。

数値目標は一応立ててあって、結構チャレンジングな目標で、結構頑張らないと達成できないような数値になっているというところは、ハードルの高い数値だという個人的な感想はあります。ただ基本的には減らしていくというのは非常に大事なことなので、それに取り組むための大きな目標として立てるとする市の方針だと思いますので良いと思います。推計等のデータも結構細かく本編の資料編に丁寧に記載されておりまして、拝見しましたが、一般的なやり方で妥当な推計なのだろうという風に読んだ次第です。

その他よろしいでしょうか。

(委員全員)

意見・質問等なし。

(会長)

それではこの辺りで本日の議題については終了とさせていただければと思います。どうもたくさんのご意見ありがとうございました。進行を事務局にお戻ししたいと思います。

(事務局)

どうもありがとうございました。

7. 今後のスケジュール

(事務局)

先ほど計画の案の中でも触れましたが、次回の予定を大変申し訳ございませんがこちらの都合で決めさせていただいておまして、来年令和5年1月16日(月)午前10時から市役所5階503会議室で開催させていただければと思いますので、ご予定をよろしく願います。

以上で会議はすべて終了となります。特に無いようであれば以上となります。

(委員全員)

意見・質問等なし。

8. 閉会

以上